

# 丘のまちは緑でつながる



## ■設計趣旨

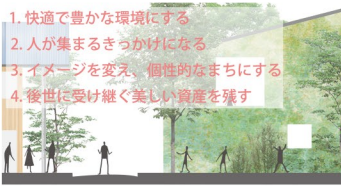
空洞化し人通りが少なくなった飯田の中心市街地を、緑を増やすことで世界に誇れる美しいおののあるまちにする。綿密な現地リサーチから、飯田の「丘の上」を多くの人々が訪れる快適で個性豊かな都市にするための提案をする。それは同時に、既存の都市構造やストックを最大限に活かしながら多くの人々をまちづくりに巻き込むことにもなる。リニア新幹線が開通する頃、豊かな緑にあふれた丘のまちは、駅とりんご並木が緑の軸でつながって回遊性のあるにぎやかなまちとなり、海外から訪れる人から市内に住む人、まちなか居住者まで多種多様な人々をつなぐ環境文化都市となる。そして、まちは生き生きとよみがえる。

## ■コンセプト

衰退した中心市街地



緑化して、↓



まちを緑化することで外から訪れる人を迎える環境をつくる。

### 1. 既存の都市構造をいかす

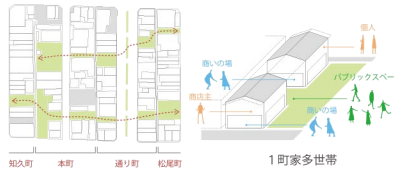
#### ■回遊性の創出

町にまたがって既存の空地を緑化してつなげていくことで回遊性を創出するとともに、裏界線を有効に活用する。

#### ■所有形式を変えて都市を更新する

まちづくり会社を中心となって緑地をパブリックな広場として整備し、あらゆる主体が集まって暮らす。

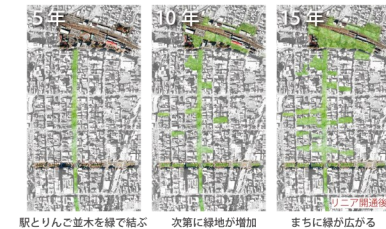
・空地をいかしてつなぐ ・新しい所有形態



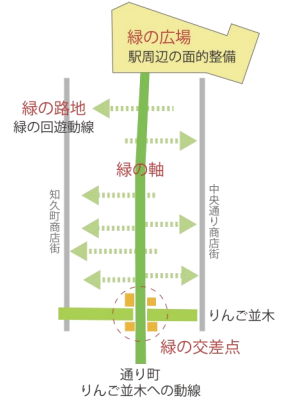
### 2. 様々な人が集まってまちをつくる

■時間軸を考慮したまちづくり  
柔軟に都市を更新していけるように、リニアの開通に合わせて小さな単位で都市を緑化し更新していく。

■多くの人々を巻き込むプログラム  
中心市街地を持続可能にしていくためのプログラムとしてカルチャースクールを導入する。駅も多機能化し、日常的に多くの人々が訪れる場所にする。



## ■全体計画



通り町を緑道化してりんご並木への動線とし、りんご並木との交点を整備する。通り町から商店街への緑の回遊動線を設ける。

## ■提案

市民が主体的に関わりながら、緑地と建築を同時につくる。駅周辺の面的整備（提案1）とりんご並木への動線の選択と修景（提案2）に共通して、空地を緑化しながら交流のためのパブリックな空間をつくり出している。地面だけでなく壁面や屋根面も緑化することで環境負荷を減らしつつ、美しく快適で個性豊かな都市を目指す。

### 提案1

「外から訪れる人を迎える緑豊かなまちの玄関口」



#### 緑の広場

リニア中央新幹線の開通を見据えて、国外や県外から訪れる人々を迎えるための緑豊かな個人的な駅の提案。リニア駅と飯田駅を結ぶ新しい路線を開設し、地域交通の結節点とする。既存の大型店舗と商店街、神社などの周辺資源を活かしながら、回遊性や景観に配慮した面的整備を行う。

### 提案2：りんご並木への動線の選択と修景

「人々をりんご並木へと誘う多様な緑の歩行空間」



#### 緑の軸

通り町の既存の防火道路の機能を保ちつつ緑化し、駅とりんご並木を結ぶ歩行者のための「緑の軸」とする。

#### 緑の交差点

緑の軸とりんご並木の交点に文化を発信するための複合施設と広場を提案する。広場と建築を一体的に使うことができるように、一層目を開放的にする。にぎわいを表出する大規模木造建築。

#### 緑の路地

新しい居住者を呼び込み、既存の街並を継承しながら新たな街並をつくるための建築とライフスタイルの提案。リノベーションと新築を組み合わせながら、居住環境を整えて交流の場をつくる。